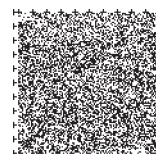


練馬区障害者基礎調査 報告書

概要版

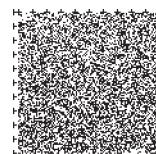
平成26年（2014年）3月

練馬区



練馬区障害者基礎調査報告書・概要版目次

I 調査の概要	2
1 調査の目的	2
2 調査対象	2
3 調査時期	2
4 調査方法	2
5 回収状況	2
6 概要版を利用するにあたって	2
II 調査結果の内容	3
1 基本属性	3
2 介助・援助の状況について	5
3 日中の過ごし方について	6
4 教育について	6
5 雇用・就労について	7
6 外出や社会参加の状況について	8
7 健康状況や医療について	9
8 相談や情報の入手について	10
9 福祉サービスについて	12
10 将来について	14
11 災害対策について	15
12 権利擁護について	16
13 障害者施策全般について	18
14 介助・援助者の意向	19



I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成24年3月に策定した『練馬区障害者計画・第三期障害福祉計画』（計画期間：平成24年度から平成26年度）の見直し、次期練馬区障害者計画・第四期障害福祉計画を策定するため、障害のある区民の意向を把握し、計画策定の基礎データとして活用することを目的として実施した。

2 調査対象

身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、自立支援医療制度（精神通院）の利用者、難病医療費助成制度の申請者から、合計3,350名を無作為抽出した。また、施設入所者の意向についても把握するため、合計150名を無作為抽出し、あわせて3,500名に対して調査を行った。

3 調査時期

平成25年12月

4 調査方法

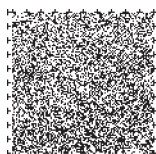
郵送配布・郵送回収

5 回収状況

区 分	対象者数	有効回収数	有効回収率
身体障害者	1,150	558	48.5%
知的障害者	600	248	41.3%
精神障害者	1,000	434	43.4%
難病患者	600	346	57.7%
施設入所者	150	100	66.7%
合 計	3,500	1,686	48.2%

6 概要版を利用するにあたって

- 今回の障害者基礎調査報告書では、身体障害者手帳所持者を「身体障害者」、愛の手帳所持者を「知的障害者」、自立支援医療制度（精神通院）の利用者を「精神障害者」、難病医療費助成制度の申請者を「難病患者」と区分している。
- 図・表中のnとは、基数となる実数である。回答は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、選択肢の数値（%）の合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 図・表中の「-」は回答者が皆無のものである。



Ⅱ 調査結果の内容

1 基本属性

(1) 性別

「男性」が51.7%、「女性」が48.3%となっている。知的障害者では、「男性」が61.3%と多くなっている。

(2) 年齢

身体障害者、難病患者では60歳以上の割合が多く、知的障害者では10歳代が多くなっている。

(単位：%)

区分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答	平均年齢
身体障害者	558	13.3	13.6	2.0	4.7	9.1	9.3	45.5	2.5	49.3歳
知的障害者	248	13.7	28.6	10.5	11.7	10.5	3.6	17.3	4.0	31.8歳
精神障害者	434	0.5	7.8	9.2	16.6	21.4	17.5	24.4	2.5	46.3歳
難病患者	346	—	0.6	5.5	11.3	15.0	19.9	43.6	4.0	55.5歳
施設入所者	100	—	—	8.0	8.0	27.0	24.0	27.0	6.0	51.0歳

(3) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「本人が自分一人で記入」が55.9%で、その他は、ご家族や介助の方が本人の意向を聞いたり、また意向を考えたりしてご記入いただいた。知的障害者では、ご家族や介助の方が79.4%と多くなっている。

(4) 居住形態、施設入所年数（施設入所者のみ）等

① 居住形態

「自分の持ち家（購入マンションも含む）」が最も多く31.8%、次いで「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が28.1%となっている。知的障害者では、「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が最も多く46.8%となっている。

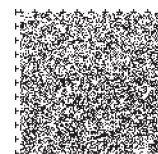
② 施設入所年数等

「10年以上」が最も多く63.0%となっている。

施設入所している施設の場所は、「東京都外」が最も多く54.0%、「練馬区内」は15.0%となっている。

(5) 同居者（複数回答）

「父、母」が最も多く39.0%、次いで「配偶者（夫または妻）」31.6%となっている。精神障害者では、「一人暮らし」が24.9%となっている。



(6) 収入源（複数回答）

すべての障害で、「年金・手当」の回答が最も多い。精神障害者では、他の障害と比べ生活保護費の割合が多くなっている。

(単位：%)

区分	n	就労による収入	年金・手当	生活保護費	家族などからの仕送り	その他	無回答
身体障害者	558	20.1	50.5	6.6	3.2	25.4	7.0
知的障害者	248	21.4	49.2	4.0	46.0	6.5	3.2
精神障害者	434	28.1	40.8	19.6	6.2	24.0	3.2
難病患者	346	41.0	43.4	0.3	2.9	17.1	6.4
施設入所者	100	5.0	88.0	4.0	7.0	5.0	3.0

(7) 障害の程度

① 障害の程度

身体障害者の障害の程度は「1級」(35.1%)が、知的障害者の障害の程度は、「4度」(37.9%)が、精神障害者のうち精神障害者保健福祉手帳所持者(173人)の障害の程度は、「2級」(50.3%)が最も多い。

② 重複障害の状況（手帳所持による）

身体障害者の18.3%、知的障害者の20.1%、精神障害者の18.6%、難病患者の1.2%、施設入所者の27.0%で障害が重複している。

(8) 障害の種類等

① 身体障害者の障害の種類

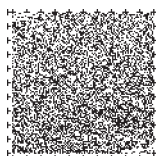
「肢体不自由（上肢、下肢等）」が最も多く24.7%、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害）」(24.4%)もほぼ同じ割合を占めている。次いで「聴覚障害」が16.5%、「視覚障害」が15.9%と続いている。

② 精神障害者の診断名（複数回答）

精神障害者の診断名は、「うつ病」が最も多く34.3%、次いで「統合失調症」が22.4%、「発達障害」が14.3%、「躁うつ病」が8.5%、「高機能自閉症」が5.8%と続いている。

③ 難病患者の疾患名

難病患者が罹患している疾患は、「パーキンソン病関連疾患」(8.7%)、「潰瘍性大腸炎」(7.5%)、「全身性エリテマトーデス」(5.8%)、「間脳下垂体機能障害」(4.0%)、「脊髄小脳変性症」(3.8%)、「特発性血小板減少性紫斑病」(3.5%)、「後縦靭帯骨化症」(3.5%)、「クローン病」(3.2%)「特発性大腿骨頭壊死症」(3.2%)が多い。



(9) 手帳を取得した年齢、精神疾患・難病の発症年齢

身体障害者手帳と愛の手帳を取得した年齢は、「10歳未満」が最も多い(31.7%、47.6%)。精神疾患の発症年齢は、「20歳代」が最も多く(19.4%)、難病の発症年齢は、「60歳以上」が最も多い(22.0%)。

(10) 障害程度区分認定の状況

障害程度区分の認定を受けたことが「ある」と回答した人は、14.0%となっている。

(11) 発達障害、高次脳機能障害、難病等の診断状況(複数回答)

「発達障害」と診断されたことがある人は、知的障害者で34.3%である。
「高次脳機能障害」と診断されたことがある人は、施設入所者で4.0%である。
「難病」と診断されたことがある人は、身体障害者で12.7%である。

2 介助・援助の状況について

(1) 主な介助・援助者

① 主な介助・援助者(複数回答)

「父、母」が最も多く29.9%、次いで「配偶者(夫または妻)」が13.9%となっている。難病患者では、「とくに介助等は受けていない」(63.6%)が多い。

② 主な介助・援助者のうち、最も長く介助・援助している人

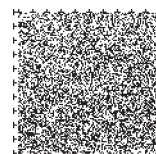
「父、母」が最も多く46.2%、次いで「配偶者(夫または妻)」が19.3%となっている。

(2) 介助・援助の内容(複数回答)

身体障害者、難病患者では「外出」(57.8%、55.2%)、知的障害者では「お金の管理」(71.4%)、精神障害者では「食事のしたく」(64.7%)が最も多い。

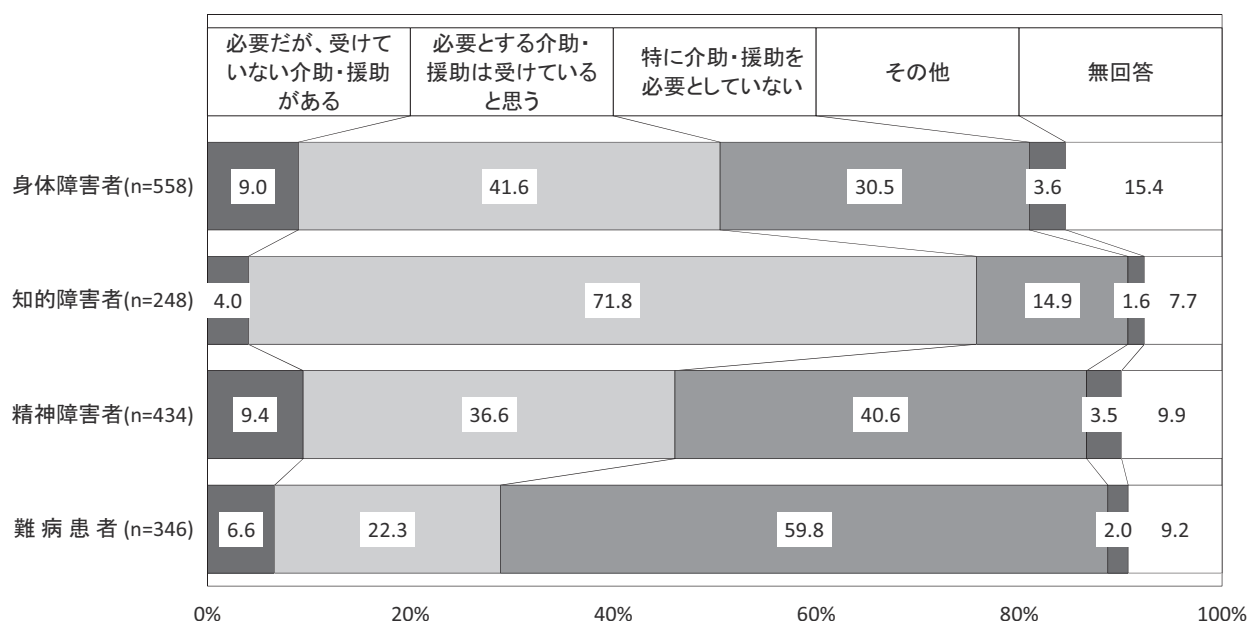
(3) 介助・援助者が不在のときに希望する対応(複数回答)

「同居している他の家族に頼みたい」が最も多く32.6%、次いで「介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい」が23.8%で続いている。精神障害者では、29.3%の人が「今までそのようなことはなかったので、よくわからない」と回答している。



(4) 必要とする介助・援助の有無

「必要とする介助・援助は受けていると思う」と回答している割合は、知的障害者が最も多い（71.8%）。



3 日中の過ごし方について

日中の主な過ごし方は、身体障害者、精神障害者では、「自宅にすることが多い」（38.9%、44.0%）、知的障害者では、「幼稚園や保育園、学校」（36.7%）、難病患者では、「働いている」（41.9%）が最も多くなっている。

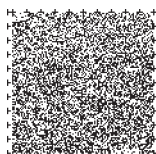
4 教育について

(1) 通園・通学先

通園・通学先は、「特別支援学校」が最も多く 47.4%、次いで「通常の学級」が 17.8% となっている。

(2) 通園・通学に際し充実してほしいこと（複数回答）

通園・通学に際し充実してほしいことは、「夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい」が最も多く 43.7%、次いで「先生・生徒の理解などが深まってほしい」が 33.2%で続いている。



5 雇用・就労について

(1) 就労形態

「会社・団体等の正規社員」が最も多く 37.0%、次いで「非正規社員」が 27.8%となっている。知的障害者では、「就労移行支援・就労継続支援事業所」(44.9%)が最も多くなっている。

(2) 職場の所在地

「23区内(練馬区を除く)」が最も多く 40.7%、「練馬区内」が 37.4%となっている。

(3) 1年間の就労収入

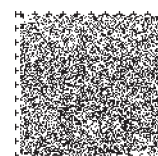
「100万円～300万円未満」が最も多く 29.3%となっている。知的障害者では、「5万円未満」(24.6%)が最も多い。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=110)	知的障害者 (n=69)	精神障害者 (n=136)	手帳所持者 (n=56)	難病患者 (n=145)
5万円未満	3.6	24.6(1位)	14.0(3位)	19.6(2位)	0.7
5万円～20万円未満	4.5	21.7(3位)	11.0	7.1	6.2
20万円～50万円未満	1.8	7.2	5.9	8.9	2.1
50万円～100万円未満	10.9(3位)	15.9	14.7(2位)	16.1(3位)	7.6
100万円～300万円未満	33.6(1位)	24.6(1位)	26.5(1位)	25.0(1位)	31.0(1位)
300万円～500万円未満	20.9(2位)	—	11.0	10.7	25.5(2位)
500万円～700万円未満	8.2	—	7.4	1.8	13.1(3位)
700万円以上	8.2	—	3.7	1.8	9.0
収入はない	2.7	1.4	2.9	7.1	2.8
無回答	5.5	4.3	2.9	1.8	2.1

(4) 仕事をする上での不安や不満(複数回答)

「収入が少ない」が最も多く 37.6%となっている。また、26.1%が「特に不安や不満はない」と回答している。精神障害者では、「人間関係が苦手」(38.2%)の回答も多い。



(5) 今後の就労意向

① 今後の就労意向

働いていない人のうち、40.9%が「働きたい」または「働きたいが働けないと思う」と回答している。

② 働いてみたいと思う仕事の形態

「働きたい」「働きたいが、働けないと思う」と回答した人の働いてみたいと思う仕事の形態は、「会社・団体等の正規社員」、「非正規社員」とともに18.2%で最も多くなっている。知的障害者では、「就労移行支援・就労継続支援事業所」が最も多く20.8%である。

(6) 働いていない理由（複数回答）

「体調がよくないから」が最も多く30.7%、次いで「働くと、体調の悪いときに休みにくいから」が11.1%となっている。

(7) 働くために整っていることが大切だと思う環境（複数回答）

「事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること」が最も多く50.1%、次いで「健康状態にあわせた働き方ができること」が46.7%で続いている。知的障害者では、「仕事の内容が障害のある人にあっていること」（57.3%）の回答も多い。

6 外出や社会参加の状況について

(1) 外出の際に困っていること（複数回答）

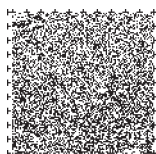
身体障害者、難病患者では、「歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい」（27.2%、19.7%）、知的障害者では、「まわりの人と話すのがむずかしい」（33.1%）、精神障害者では、「他人の視線が気になる」（21.7%）が最も多い。

(2) 今後してみたい活動（複数回答）

「旅行」が最も多く46.4%、次いで「スポーツやレクリエーション」が30.2%となっている。

(3) 活動に参加するために必要な支援（複数回答）

「活動についての情報が提供されること」が最も多く30.4%、「障害にあった対応があること」が29.5%で続いている。



7 健康状況や医療について

(1) かかりつけ医の有無

かかりつけ医が「いる」人は、身体障害者が84.8%、知的障害者が79.4%となっている。

(2) 医療の受診形態

「通院している」人は、精神障害者が91.9%、難病患者が93.1%となっている。
(なお、精神障害者は自立支援医療制度(精神通院)利用者、難病患者は難病医療費助成利用者を調査対象としている。)

(3) 入院歴の有無と入院期間

① 入院歴の有無

入院歴の「ある」人は、精神障害者が41.7%、難病患者が71.4%となっている。

② 入院期間

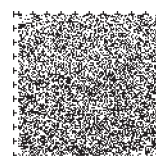
精神障害者、難病患者ともに「3か月未満」が最も多い(39.8%、57.5%)。

(4) 通院する際の介助の必要性(難病患者のみ)

「付添いなどの介助が必要」が18.6%、「介助は必要ない」が77.0%となっている。

(5) 健康管理や医療で困ったことや不便に感じたこと(複数回答)

全ての障害で「特に困っていることはない」と回答する方が40%台となっている。難病患者では、「医療費の負担が大きい」(19.3%)が最も多い。



8 相談や情報の入手について

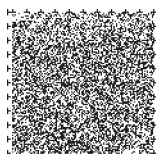
(1) 悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先（複数回答）

「友人・知人」、「病院・診療所」、「総合福祉事務所」の回答が多くなっている。知的障害者では、「学校、職場」（26.6%）が最も多い。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=558)	知的障害者 (n=248)	精神障害者 (n=434)	難病患者 (n=346)	施設入所者 (n=100)
総合福祉事務所	18.5（3位）	21.4（2位）	15.4（3位）	9.2	13.0（3位）
保健相談所	3.9	2.4	9.2	5.8	1.0
きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら	0.7	4.4	6.0	1.2	3.0
権利擁護センターほっとサポートねりま	0.2	0.8	0.5	—	—
民生委員・児童委員	0.9	—	1.2	—	—
身体障害者・知的障害者相談員	1.3	3.2	1.8		7.0
児童相談所	0.4	1.6	1.2		—
福祉施設	3.8	15.7	5.3		64.0（1位）
病院・診療所	27.1（2位）	16.1	43.1（1位）	34.1（1位）	6.0
難病情報センター				2.0	
学校・職場	13.4	26.6（1位）	9.7	3.5	1.0
障害者団体（患者団体・患者会）	4.5	3.2	2.5	2.9	1.0
友人・知人	31.4（1位）	21.0（3位）	26.7（2位）	30.1（2位）	7.0
その他	6.6	11.7	14.7	6.6	20.0（2位）
相談できるところはない	11.6	9.7	12.0	16.5（3位）	1.0
相談の必要はない	14.3	7.7	8.3	12.1	1.0
無回答	9.9	14.5	4.4	4.6	9.0

（注）斜線の選択肢は、各調査で質問していない。



(2) 福祉サービスなどの情報の入手先（複数回答）

「ねりま区報」、「区の障害者福祉のしおり」、「総合福祉事務所・保健相談所」の回答が多くなっている。精神障害者、難病患者では、「病院・診療所」の回答も多い。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=558)	知的障害者 (n=248)	精神障害者 (n=434)	難病患者 (n=346)	施設入所者 (n=100)
ねりま区報	40.9 (1位)	39.5 (1位)	36.4 (1位)	43.6 (1位)	6.0
区のホームページ	12.9	5.2	13.4	16.8	2.0
区の障害者福祉のしおり	26.0 (2位)	19.0	8.8	9.5	3.0
総合福祉事務所・保健相談所	17.0	19.4 (3位)	16.8 (3位)	11.6	9.0 (3位)
きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら	1.1	4.4	7.1	1.2	2.0
学校、職場、施設	11.1	25.0 (2位)	8.8	1.4	39.0 (1位)
病院・診療所	13.3	3.6	26.3 (2位)	21.4 (2位)	3.0
民生委員・児童委員	0.4	—	0.7	—	1.0
障害者団体（患者団体・患者会）	5.7	10.1	3.2	1.4	1.0
家族・親せき	11.1	14.9	10.4	6.1	9.0 (3位)
友人・知人	19.4 (3位)	19.4 (3位)	7.6	8.4	2.0
その他	3.6	3.6	9.2	4.9	7.0
わからない	15.1	13.7	16.6	20.5 (3位)	30.0 (2位)
無回答	7.7	12.9	7.1	5.2	10.0

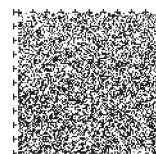
(3) コミュニケーション手段（身体障害者のみ）

① コミュニケーションの際の手段・機器等の利用状況（複数回答）

「携帯のメール」が最も多く 30.5%、次いで「パソコンのメール」が 14.5%となっている。一方、「特に使用している機器はない」は 37.8%である。

② コミュニケーションや情報取得のために充実すべきこと（複数回答）

「パソコン・携帯メールによる情報提供を増やす」が最も多く 24.4%、次いで「公共施設の案内・誘導をわかりやすくする」が 22.8%となっている。



9 福祉サービスについて

(1) 最近1年間に利用した福祉サービス（複数回答）

身体障害者、難病患者では、「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」(29.7%、11.8%)、知的障害者では、「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」(23.4%)、精神障害者では、「就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス」(11.5%)が最も多い。なお、難病患者の66.8%が「サービスを利用したことがない」と回答している。

(2) 必要だと思うサービスの利用状況

① 必要だと思うサービスの利用状況

必要だと思うサービスを利用している人（「十分利用している」と「十分ではないが、ほぼ利用している」の合計）は36.0%、「あまり利用していない」と回答した人は22.6%となっている。

② 必要だと思うサービスを利用できていない理由（複数回答）

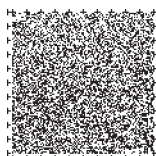
「どのようなサービスがあるかわからないから」、「利用の仕方がわからないから」の回答が多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=127)	知的障害者 (n=55)	精神障害者 (n=93)	難病患者 (n=83)
自己負担が大きいから	17.3	14.5	14.0	9.6
支給要件に該当しないから	15.7	16.4	10.8	15.7
必要とするサービスがないから	23.6 (3位)	14.5	21.5 (3位)	14.5
どのようなサービスがあるかわからないから	42.5 (1位)	41.8 (1位)	46.2 (1位)	53.0 (1位)
利用の仕方がわからないから	26.8 (2位)	29.1 (2位)	33.3 (2位)	21.7 (2位)
個別のニーズに対応できないから	14.2	18.2 (3位)	20.4	19.3 (3位)
その他	14.2	12.7	12.9	3.6
わからない	6.3	10.9	6.5	9.6
無回答	1.6	1.8	2.2	1.2

(3) 今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービス（複数回答）

身体障害者、難病患者では、「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」(41.6%、36.1%)、知的障害者では、「短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護」「移動支援・同行援護」(ともに34.3%)、精神障害者では、「就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス」(19.1%)が最も多い。



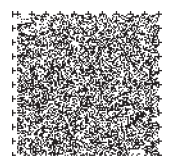
(4) 最近1年間に利用した福祉サービスと今後の利用意向（複数回答）

いずれの福祉サービスも利用意向が利用経験を上回っている。

(単位：%)

区 分		身体障害者 (n=558)	知的障害者 (n=248)	精神障害者 (n=434)	難病患者 (n=346)
ホームヘルプなどの訪問系サービス	利用状況	14.0	5.2	8.1	7.5
	利用意向	19.7	10.5	15.9	12.7
訪問看護などの医療系サービス	利用状況	6.5	1.2	6.7	6.4
	利用意向	11.1	4.8	9.2	9.5
短期入所・緊急一時保護	利用状況	5.9	12.5	4.8	2.3
	利用意向	14.2	34.3	10.6	6.1
障害者地域生活支援センター	利用状況			9.2	
	利用意向			11.1	
補装具費の支給・修理	利用状況	22.2	6.0		6.6
	利用意向	29.9	8.5		10.7
日常生活用具の給付・レンタル	利用状況	11.3	2.4		10.7
	利用意向	19.4	6.0		14.7
住宅設備改善費の給付	利用状況	3.4	—		2.9
	利用意向	12.2	4.4		11.0
福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	利用状況	29.7	12.5		11.8
	利用意向	41.6	24.6		36.1
移動支援・同行援護	利用状況	10.0	21.8		3.2
	利用意向	17.0	34.3		9.2
訪問入浴サービス	利用状況	2.3	0.4		2.9
	利用意向	7.0	2.0		6.1
日中活動系サービス	利用状況	1.8	14.5	11.5	
	利用意向	5.4	19.8	19.1	
GH・CHなどの居住系サービス	利用状況	1.3	4.4	3.7	1.2
	利用意向	4.1	17.7	8.3	3.8
児童発達支援・放課後等デイサービス	利用状況	7.0	23.4	1.6	
	利用意向	10.9	25.8	1.4	
日中一時支援	利用状況				—
	利用意向				6.4
手話通訳者・要約筆記者の派遣	利用状況	2.9	0.4		0.3
	利用意向	5.2	0.4		1.7
病院や診療所のデイケア	利用状況			10.6	
	利用意向			13.1	
介護保険のサービス	利用状況				7.2
	利用意向				10.4
その他	利用状況	2.7	3.2	7.6	1.2
	利用意向	3.8	2.8	7.6	3.2
利用したことがない・利用したいサービスはない	利用状況	31.5	24.2	49.1	66.8
	利用意向	14.7	11.7	29.7	34.4
無回答	利用状況	11.3	12.1	11.1	7.8
	利用意向	14.2	14.1	17.5	13.3

(注) 斜線の選択肢は、各調査で質問していない。また、ポイント差は小数点第二位を四捨五入した数値で計算している。



10 将来について

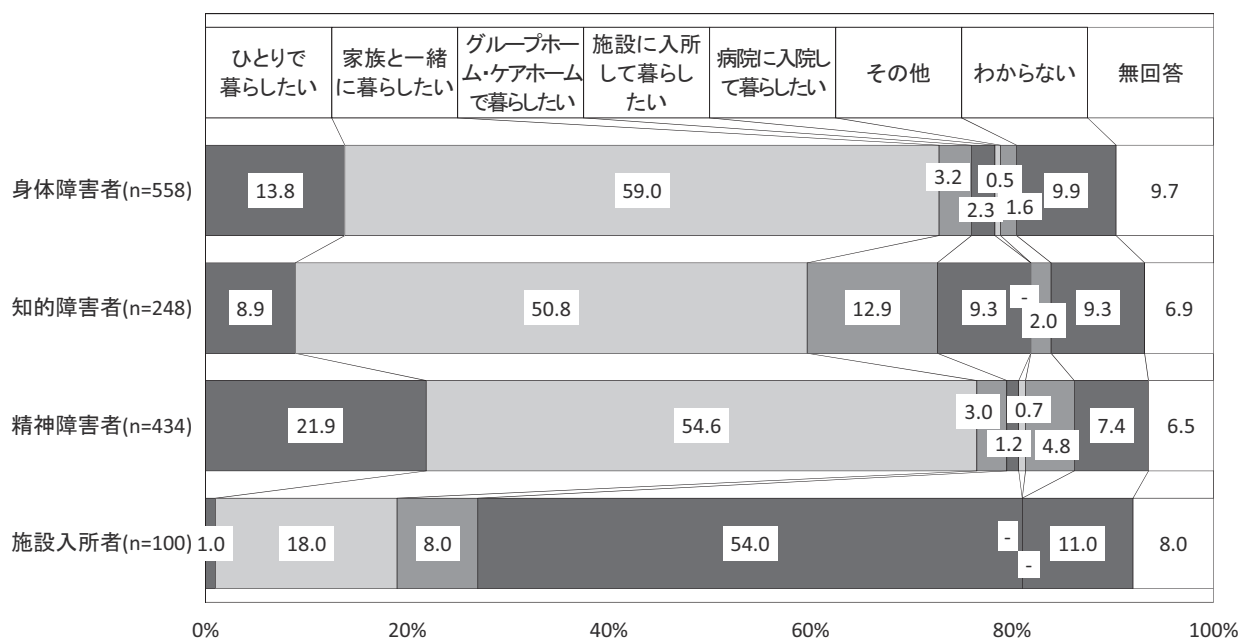
(1) 今後の日中の過ごし方（複数回答）

「自宅で過ごしたい」が最も多く 26.0%、次いで「一般企業などで働きたい」が 20.6%で続いている。身体障害者、知的障害者では、「学校に通いたい」（20.1%、23.8%）も多い。

(2) 希望する暮らし方

① 希望する暮らし方

「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く 53.0%、次いで「ひとりで暮らしたい」が 14.6%となっている。

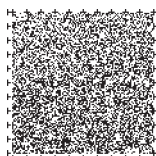


② 必要な手助けや環境（施設入所者のみ）（複数回答）

“地域で暮らすまでに”では、「障害者向け公営住宅、グループホーム・ケアホームなどの住宅を充実させること」、「地域で暮らし続けるために」では「介助者がいること」が最も多くともに 40.7%となっている。

(3) 定住意向

練馬区に住みたいと回答した人は、身体障害者が 75.3%、知的障害者が 65.7%、精神障害者が 76.3%、難病患者が 82.1%、施設入所者が 25.0%となっている。

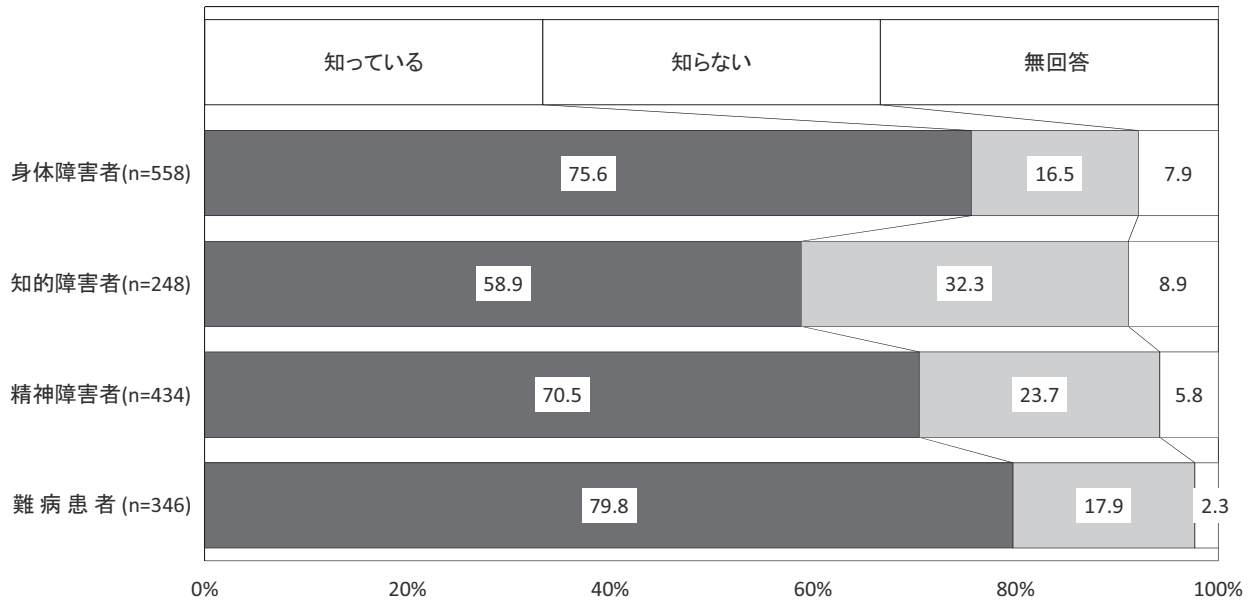


11 災害対策について

(1) 最寄りの避難拠点

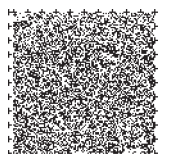
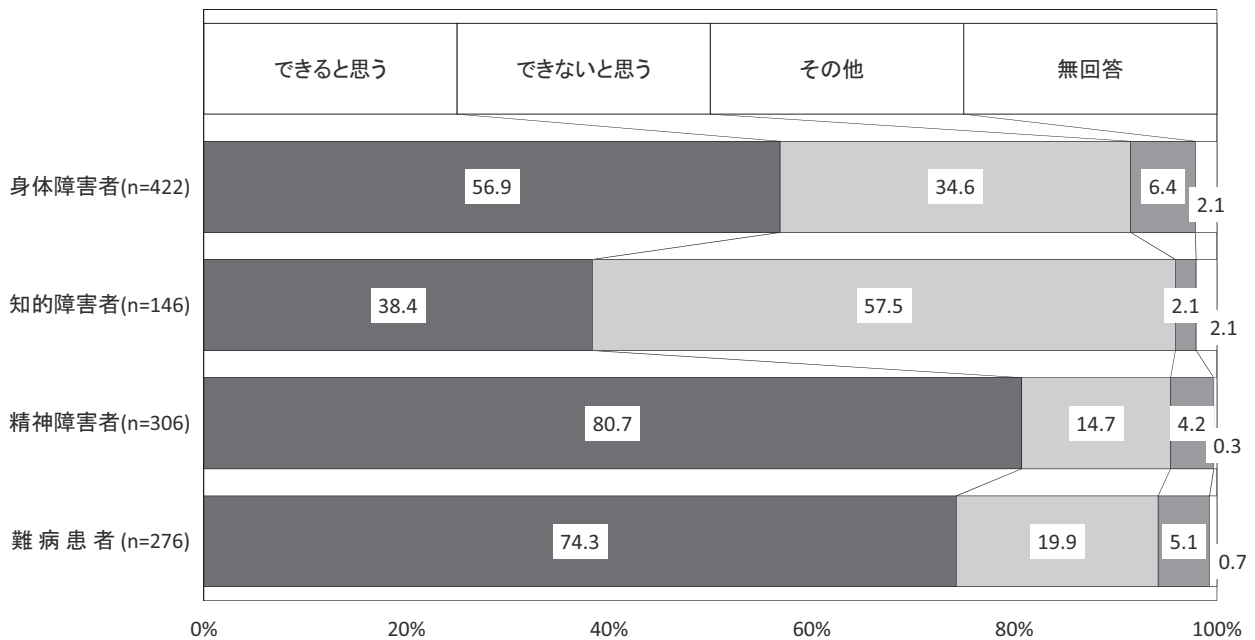
① 最寄りの避難拠点の認知度

最寄りの避難拠点の認知度は、身体障害者が75.6%、知的障害者が58.9%、精神障害者が70.5%、難病患者が79.8%となっている。



② 最寄りの避難拠点まで自力避難の可否

最寄りの避難拠点まで自力避難が「できると思う」と回答した人は、身体障害者が56.9%、知的障害者が38.4%、精神障害者が80.7%、難病患者が74.3%となっている。



(2) 災害に備えて準備していること（複数回答）

「非常用の食糧や飲料水を準備している」が最も多く 44.8%、次いで「非常持ち出し用の携帯ラジオ、懐中電灯、毛布などを準備している」が 34.2%となっている。

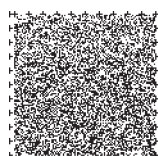
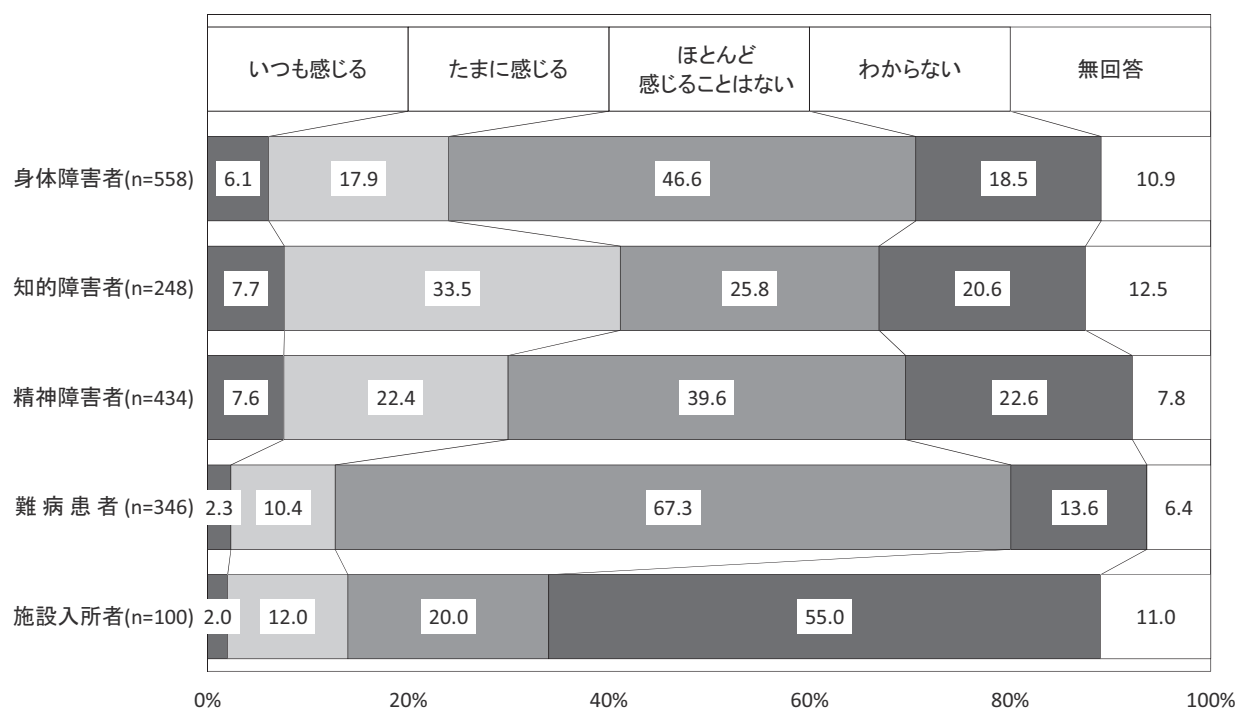
(3) 災害に備えて必要な対策（複数回答）

「避難しやすい避難所を整備する」が最も多く 44.1%、次いで「避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する」が 35.0%となっている。

12 権利擁護について

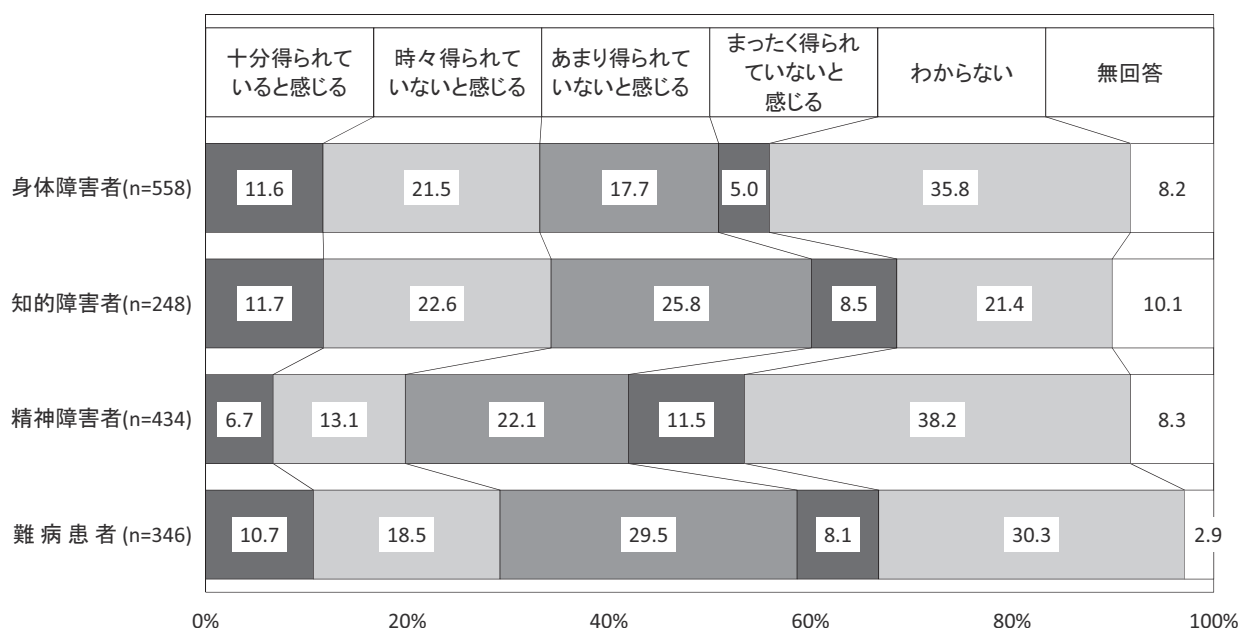
(1) 差別や人権侵害を受けていると感じるものの有無

「いつも感じる」「たまに感じる」と回答した人の割合は、知的障害者が最も多くなっている。難病患者では、「ほとんど感じることはない」の回答が多い。



(2) 地域での障害に対する理解の感じ方

各障害で、5割程度の人が障害や難病に対して理解を得られていないと感じている。



(3) 障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なこと（複数回答）

「学校における福祉教育・人権教育を充実する」が最も多く 34.0%、次いで「障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する」が 32.5%で続いている。

(4) 成年後見制度

① 成年後見制度の認知度

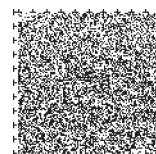
成年後見制度を知っていると回答した人は、身体障害者が 46.2%、知的障害者が 45.6%、精神障害者が 50.2%、難病患者が 62.7%、施設入所者が 32.0%となっている。

② 成年後見制度の利用意向

「現在利用している」「今後利用したい」と回答した人は、身体障害者が 9.3%、知的障害者が 31.8%、精神障害者が 14.6%、難病患者が 6.4%、施設入所者が 30.0%となっている。

③ 成年後見制度を利用しない（したくない）理由（複数回答）

成年後見制度を利用しない（したくない）理由は、「必要がない」が最も多く 59.4%、次いで「制度のしくみがよくわからない」が 22.3%となっている。

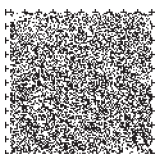


13 障害者施策全般について (複数回答)

「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」、「障害者や高齢者にやさしい福祉のまちづくりを推進すること」、「当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること」の回答が多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=558)	知的障害者 (n=248)	精神障害者 (n=434)	施設入所者 (n=100)
障害の早期発見・早期療育に努めること	33.5	40.3	47.5 (2位)	19.0
障害のある人とない人の交流を推進し、相互理解を深めること	31.2	44.0	31.3	37.0 (1位)
障害のある子どもそれぞれの障害状況や発達段階に応じた教育を進めること	35.1	48.0 (3位)	34.3	27.0
障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	38.2 (2位)	55.2 (1位)	50.7 (1位)	25.0
ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	28.1	24.6	24.9	22.0
区内で利用できる施設を整備すること	29.6	45.2	26.5	19.0
障害者や高齢者にやさしい福祉のまちづくりを推進すること	42.1 (1位)	40.7	37.8	36.0 (3位)
障害のある人の住まいを整備すること	31.2	43.1	31.8	23.0
文化、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるように支援すること	19.0	27.0	21.7	18.0
障害のある当事者による活動を支援すること	18.3	25.0	20.7	17.0
ボランティア活動を充実すること	15.1	16.9	15.7	8.0
障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	33.7	39.5	32.7	18.0
相談体制を充実し、適切な支援に努めること	34.1	43.1	38.5 (3位)	30.0
当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	37.1 (3位)	50.8 (2位)	38.5 (3位)	37.0 (1位)
その他	2.3	2.4	5.5	6.0
特になし	5.9	4.8	6.7	13.0
無回答	17.4	12.1	8.5	15.0



14 介助・援助者の意向

(1) 介助・援助するにあたって困っていること（複数回答）

「精神的な負担が大きい」が最も多く 27.3%、次いで「長期的な外出ができない」が 23.7%で続いている。

(2) 将来、本人に暮らしてほしい場所

「現在の家族と一緒に暮らす」が最も多く 35.4%、次いで「グループホーム・ケアホームで暮らす」が 12.2%となっている。

(3) 地域で暮らすことの可能性と地域で暮らすための支援や環境

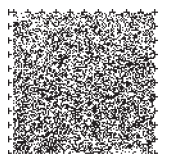
(施設入所者のみ)

① 地域で暮らすことの可能性

「条件が整えば可能だと思う」が 38.0%、「難しいと思う」が 51.0%となっている。

② 地域で暮らすために必要な支援や環境（複数回答）

“地域で暮らすまでに”では、「障害者向け公営住宅、グループホーム・ケアホームなどの住宅の充実」が最も多く 71.1%、“地域で暮らし続けるために”では「介助者がいること」が最も多く 76.3%となっている。



練馬区障害者基礎調査報告書・概要版

平成 26 年 (2014 年) 3 月

編集・発行

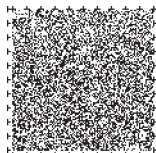
練馬区健康福祉事業本部福祉部障害者施策推進課

〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6丁目12番1号

電話 03-5984-4602 (直通)

FAX 03-5984-1215

E-mail SHOGAISISAKU02@city.nerima.tokyo.jp



リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。